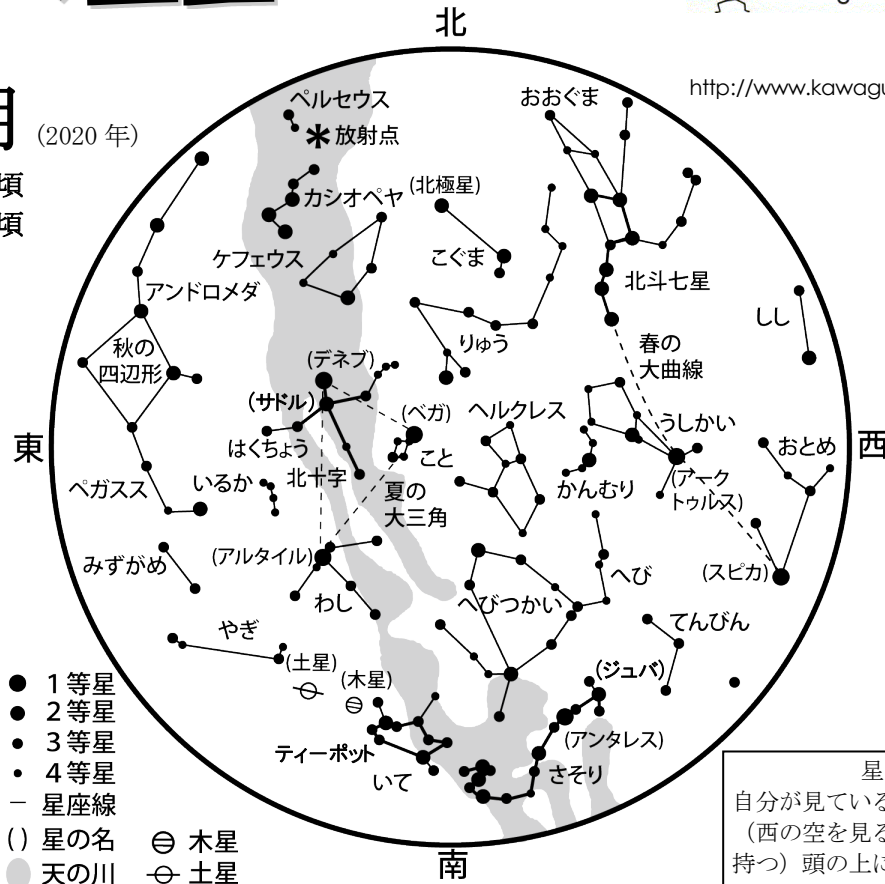


今月の星空



8月 (2020年)

上旬 21 時頃
下旬 20 時頃



星図の見方
自分が見ている方向を下にして、
(西の空を見るときは西を下にして
持つ) 頭の上にかざして見ます。

月 齢 ○ 満月 4 日、● 下弦 12 日、● 新月 19 日、● 上弦 26 日

惑星情報

金星 明け方 東 (おうし→オリオン→ふたご座 -4 等) 火星 真夜中 東→南東 (うお座 -1→-2 等)
木星 夜のはじめ頃 南東→南 (いて座 -3 等) 土星 夜のはじめ頃 南東→南 (いて座 0 等)

★どこまで見える？夏の星座

夏の大きな三角が空高くに昇り、夏の星座が見ごろとなりました。また、南の空に並んで見える木星と土星にも注目です。この夏、遠出をしなくても街中で探せるおすすめの星座 3 選^(注)を紹介します。

(注) 以下、★の数はおすすめ度。紹介する星座は、①市街地でも見える明るい星 (3 等以上の明るさと仮定) が多い、②明るい星の間隔が狭い、③わかりやすい星の並びである、などを基準にしています。

- ★★★★ はくちょう座…夏の大きな三角、明るい星だけで結べる北十字が目印。デネブ (1 等) から十字の交点のサドル (2 等) を見つけるのがコツ。空高くにあり、建物にも邪魔されにくい。
- ★★☆ さそり座…アンタレス (1 等) と S 字の星の並びが目印。2 等～3 等の星が多く並び、南の空が開けた場所で、まずはアンタレスの両隣の星やさそりの頭部のジュバ (2 等) を探そう。
- ★☆☆ いて座…1 等星はないが、2 等～3 等の星で繋ぐ「ティーポット」の形が目印。今年は非常に明るい木星 (-3 等) が近くにあり目印になる。さそり座と一緒に見つけたい。

★3 大流星群の一つ「ペルセウス座流星群」を見よう (極大 12 日 22 時頃)

年間でも 1、2 を争う流星数を誇るペルセウス座流星群。見ごろは 12 日の夜遅くから明け方まで、その次に 11 日と 13 日の同時間帯です。空の暗い場所では最大で 1 時間に 30 個ほど観測できると予想されています。市街地ではその数分の 1 に減りますが、極大時期であれば観測できる可能性も高くなります。特別な機材は不要です。市街地でも、なるべく空が広く見渡せる場所で、屋外の暗さになれるまで最低でも 15 分は観測を続けるとよいでしょう。

かきゅう 明るい流れ星～火球…流れ星の明るさは、そのもとになる流星体 (一般に数 mm 程度の塵) の大きさや地球大気への突入速度により異なり、特に明るいものを火球と呼びます。7 月 2 日未明、関東上空で満月よりも明るい大火球が観測され話題となりました。その映像解析により、火球に伴う隕石が落下した可能性が指摘され、軌道計算から求めた推定落下地域 (千葉県習志野市) で実際に隕石が発見されました。